

# 宮城県の観光の現状

みやぎ観光振興会議

# 宮城県のこれまでの観光の取り組み

- 宮城県は「宮城の将来ビジョン」を策定し、「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を基本理念として県政を推進する中で、観光の果たす役割が極めて重要であるという認識に立って、平成18年12月に「みやぎ観光戦略プラン」、平成23年3月には「第2期みやぎ観光戦略プラン」を策定した。
- その後に発生した東日本大震災により、「宮城県震災復興計画」を策定し、その中で復興のポイントの一つに「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を掲げており、平成26年3月に「第3期みやぎ観光戦略プラン」を策定し、観光の復興に向けた取組を推進してきたところである。

## みやぎ観光戦略プランによる取組

第1期	第2期	第3期	第4期 (改定版)
平成19年度から 22年度	平成23年度から 25年度	平成26年度から 29年度	平成30年度から 令和3年度
「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して	地域が潤う、住んでよしの、訪れてよしの感動の「観光王国みやぎ」の実現を目指して	みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ	観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ
<u>3つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの取組の方向性</u>	<u>5つの戦略プロジェクト</u>
1 みやぎの魅力創出プロジェクト 2 みやぎの情報発信・誘客プロジェクト 3 みやぎの連携・組織づくりプロジェクト	1 みやぎの魅力向上プロジェクト 2 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト 3 インバウンド強化プロジェクト 4 関東以西からの誘客強化プロジェクト 5 アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト	1 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客 2 外国人観光客の回復 3 LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実 4 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化 5 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充	1 東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション 2 観光産業の連携強化と成長促進 3 外国人観光客の誘客加速化 4 沿岸部のにぎわい創出 5 <u>感染症により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくり</u>
	平成二十三年三月 みやぎ観光創造県民条例の制定		<b>【令和3年3月改定予定】</b>

# 第4期みやぎ観光戦略プラン(改定版)

【令和3年3月改定予定】

## 計画の位置づけ

- ・「みやぎ観光創造県民条例」に定める観光振興に関する基本計画(行動計画)
- ・「**新・宮城の将来ビジョン**」の分野別計画

## 計画期間

平成30年度から**令和3年度**まで

## みやぎの観光の現状と課題

- 沿岸部の観光客の回復の遅れ
- 東北地方の外国人宿泊者の伸び悩み
- 東北地方の国内観光旅行者の回復の遅れ
- 観光消費額の低迷
- 感染症の影響により旅行需要は大幅に減少**

## 計画の基本理念

観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ

数値目標	基準値 (平成28年)	最新値 (令和元年)	改定前目標値 (令和2年)	目標値 (令和3年)
観光客入込数	6,084万人	<u>6,796万人</u>	7,000万人	<u>7,000万人</u>
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の観光客入込数	552万人	<u>921万人</u>	805万人	<u>805万人</u>
宿泊観光客数	922万人泊	<u>989万人</u>	1,000万人泊	<u>1,000万人泊</u>
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の宿泊観光客数	67万人泊	<u>80万人</u>	75万人泊	<u>75万人泊</u>
外国人観光客宿泊者数	17.5万人泊	<u>53.4万人泊</u>	50万人泊	<u>50万人泊</u>
観光消費額	3,044億円	<u>3,989億円</u>	4,000億円	<u>4,000億円</u>

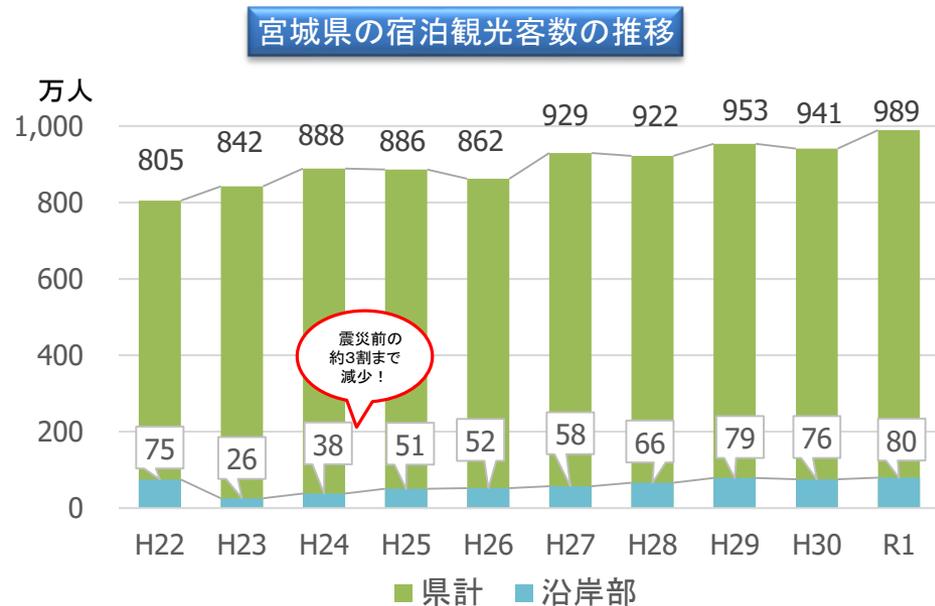
# 観光の現状①

## ～宮城県の観光客入込数・宿泊観光客数～

- 宮城県の観光客入込数は、東日本大震災で大きく減少し、震災前(平成22年)の約7割まで減少したが、震災前の水準を上回った平成29年以降、過去最高の観光客入込数を3年連続更新した。また、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)では、東日本大震災により震災前(平成22年)の約3割まで減少したが、令和元年には震災前の水準を超えた。
- 宮城県の宿泊観光客数は、東日本大震災後も復興需要などにより増加の傾向にあり、令和元年は震災前(平成22年)と比較し、約2割(22.9%)の伸びとなっている。また、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)では、東日本大震災により震災前(平成22年)の約3割まで減少したが、ほぼ震災前の水準に回復している。



出典：宮城県観光統計概要

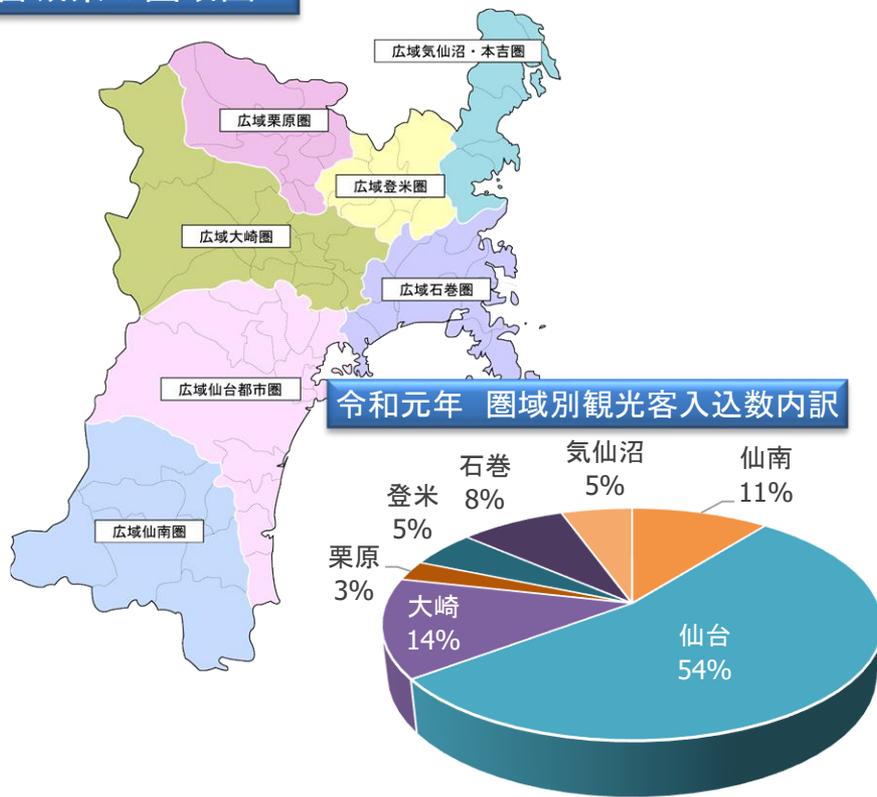


出典：宮城県観光統計概要

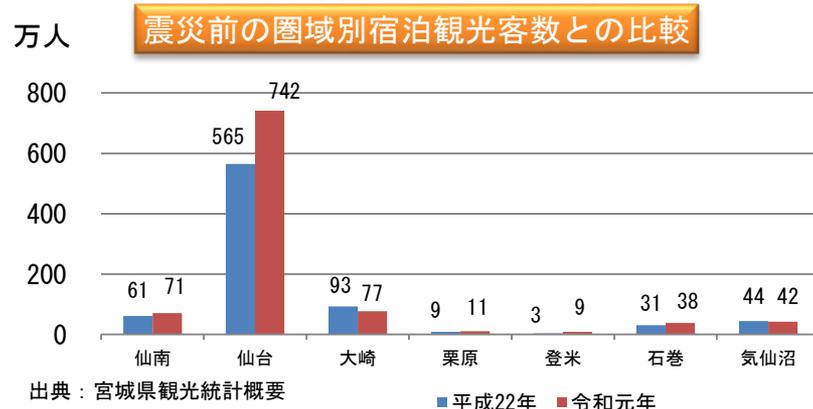
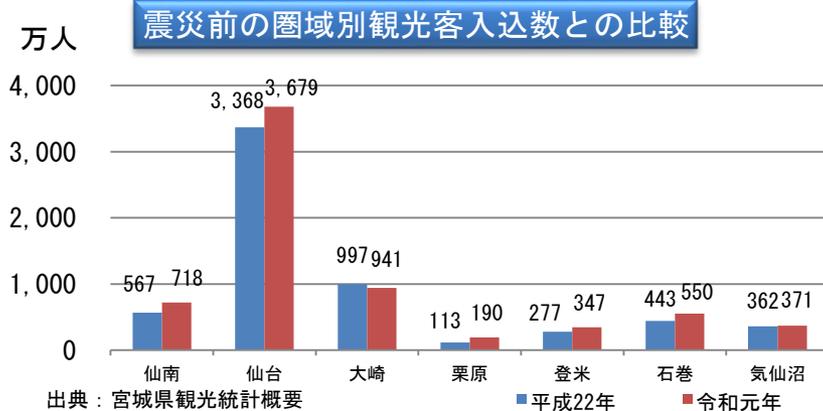
# 観光の現状② ～圏域別観光客入込数・宿泊観光客数～

- 圏域別観光客入込数は、仙台圏域が54%と全体の約6割を占め、大崎圏域が14%，仙南圏域11%と続いている。また、震災により甚大な被害を受けた沿岸部では前年の石巻圏域に引き続き、気仙沼圏域でもH22年の水準を上回った。
- 圏域別宿泊観光客数は、震災前(平成22年)との比較では、沿岸部(石巻圏域及び気仙沼圏域)はほぼ震災前の水準に回復しているが、大崎圏域が17%減少している。

## 宮城県の圏域図



出典：宮城県観光統計概要



# 観光の現状③ ～観光消費額の推移～

- 令和元年の宮城県の観光消費額は3,989億円であり、震災前(平成22年)の121%まで伸びており、観光客入込数などの順調な伸びとともに、着実に増加している。
- 消費額については、「国内客(日帰り)」、「国内客(宿泊)」、「訪日外国人」の順に大きくなるのが特徴。

宮城県の観光消費額の推移



観光客の消費動向(宮城)

宮城県	観光消費額	人数	1人1回あたりの消費額
訪日外国人	440億円	39万人	112,820円
国内客(宿泊)	2,129億円	767万人	27,757円
国内客(日帰り)	1,420億円	2,038万人	6,968円

出典：観光庁 令和元年共通基準による観光入込客統計

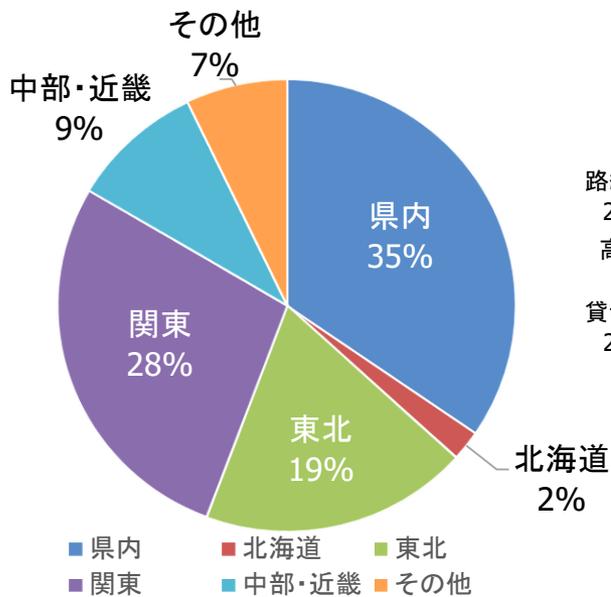
出典：観光庁 共通基準による観光入込客統計



# 観光客の動向①(居住地別・交通手段・来訪目的)

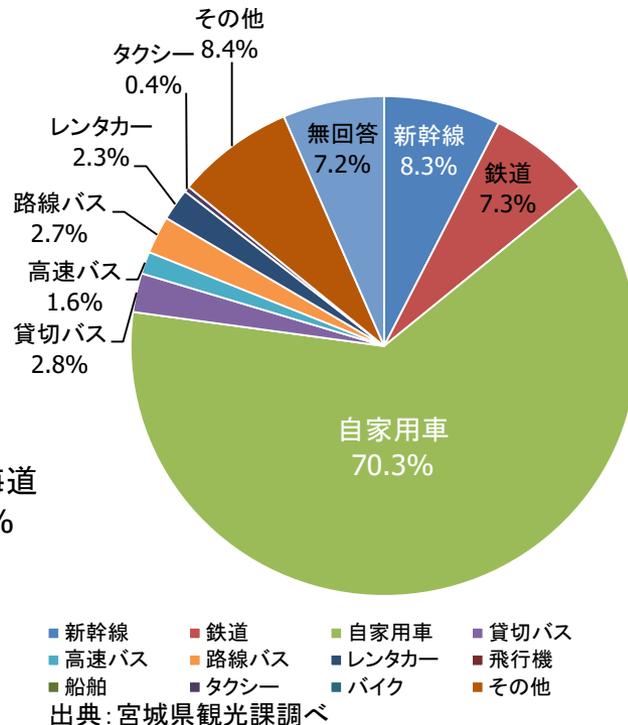
- 宿泊観光客を居住地別に見ると、県内と東北の割合が高く、合わせて5割を超える。
- 主な交通手段は自家用車が最も多く7割を占める。鉄道・新幹線は1割半程度
- 来訪目的は観光が5割を超え、イベントお祭りが約2割弱、買い物が約1割

## 居住地別宿泊観光客数



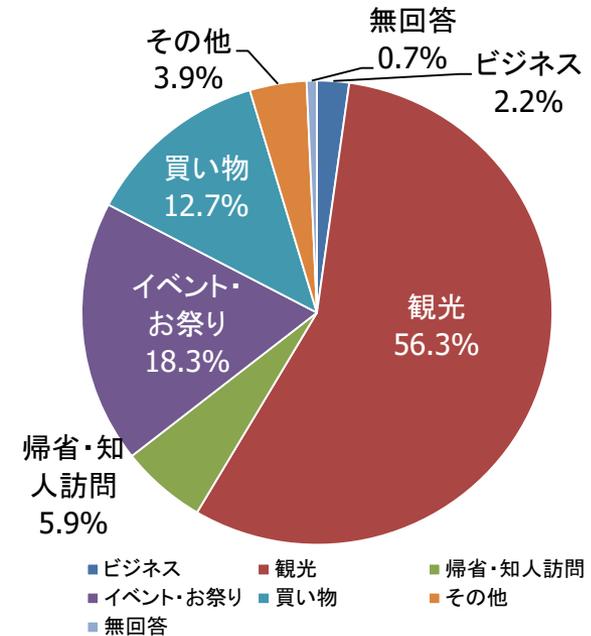
出典: 宮城県観光課調べ

## 主な交通手段(複数回答)



出典: 宮城県観光課調べ

## 来訪目的



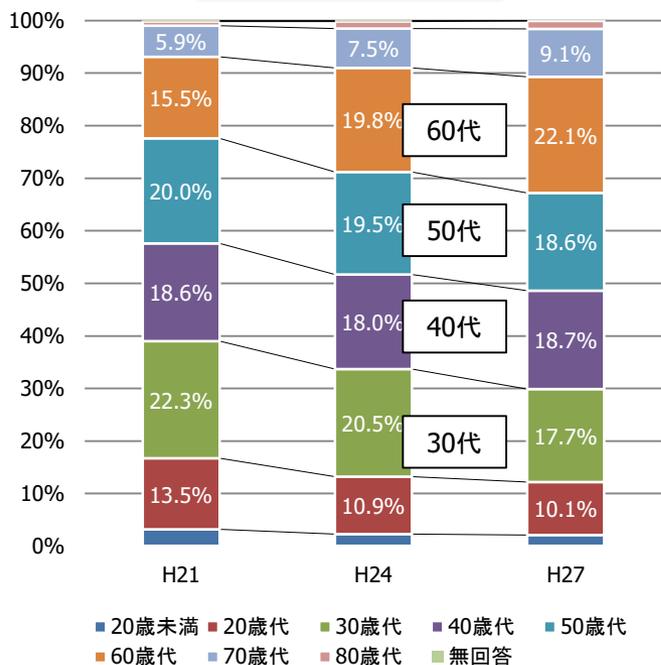
出典: 宮城県観光課調べ



# 観光客の動向②(年代・同行者・人数)

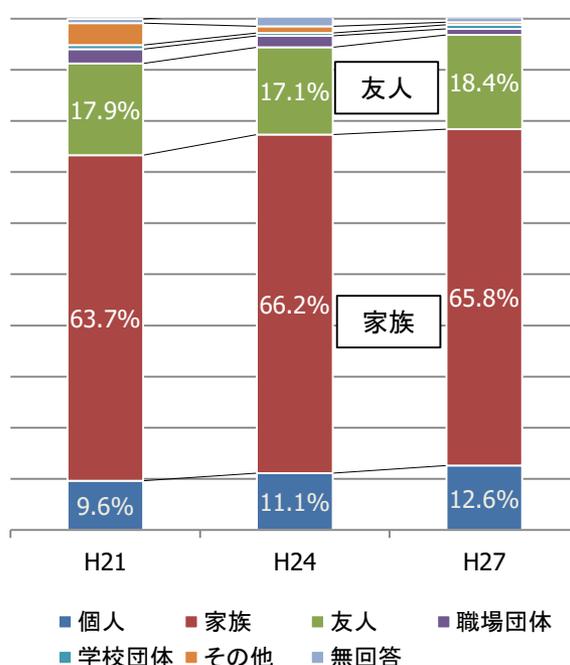
- 年代は、20歳代から60歳代まで幅広い方々が訪れている。平成27年は60歳代が増加した。
- 同行者の種類は、家族旅行が6割超を占める。
- 同行人数は、2人旅行が4割超、3人及び4～5人旅行が3割超を占める。

## 観光客の年代



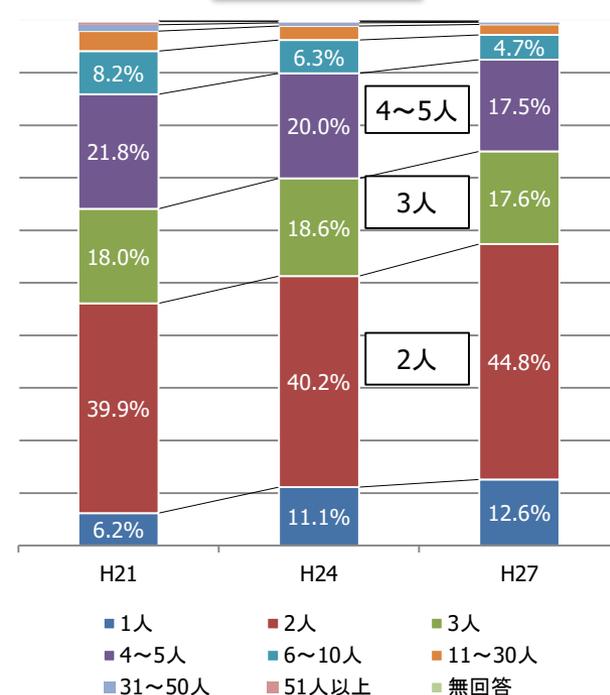
出典:宮城県観光課調べ

## 同行者の種類



出典:宮城県観光課調べ

## 同行人数



出典:宮城県観光課調べ

# 分類別主要観光地点観光客入込数

- 県内の主要観光地点を分類別に入込数順にまとめると、イベント・行催事は、1位SENDAI光のページェント285万人、2位仙台七夕まつり225万人
- 温泉は、1位秋保温泉(仙台市)104万人、2位鳴子温泉(大崎市)81万人
- 景観・名所・旧跡等は、1位松島海岸(松島町)298万人、2位竹駒神社(岩沼市)167万人

## イベント・行催事

順位	名称	入込数
1位	SENDAI光のページェント(12月)	285万人
2位	仙台七夕まつり(8月)	225万人
3位	仙台・青葉まつり(5月)	97万人
4位	定禅寺ストリートジャズフェスティバル(9月)	77万人
5位	リポーン・アート・フェスティバル(8月～9月)	44万人

## 温泉

順位	名称	入込数
1位	秋保温泉(仙台市)	104万人
2位	鳴子温泉(大崎市)	81万人
3位	遠刈田温泉(蔵王町)	73万人
4位	道の駅「上品の郷」ふたごの湯(石巻市)	30万人
5位	作並温泉(仙台市)	24万人

## 景観・名所・旧跡等

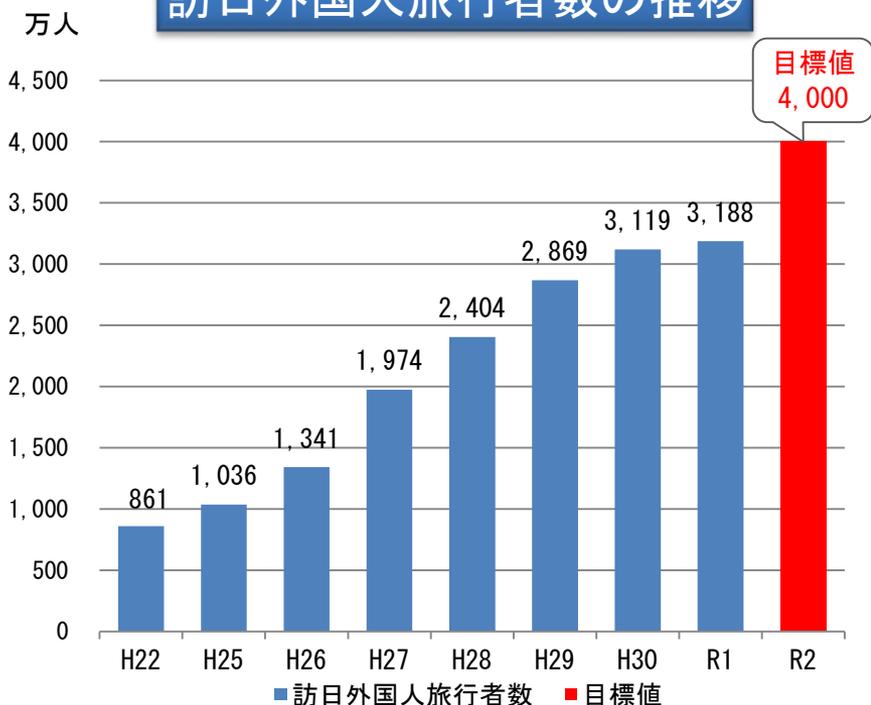
順位	名称	入込数
1位	松島海岸(松島町)	298万人
2位	竹駒神社(岩沼市)	167万人
3位	鹽竈神社・志波彦神社(塩竈市)	114万人
4位	宮城県総合運動公園(利府町)	104万人
5位	仙台城跡・瑞鳳殿・博物館等(仙台市)	101万人

# インバウンドの現状①

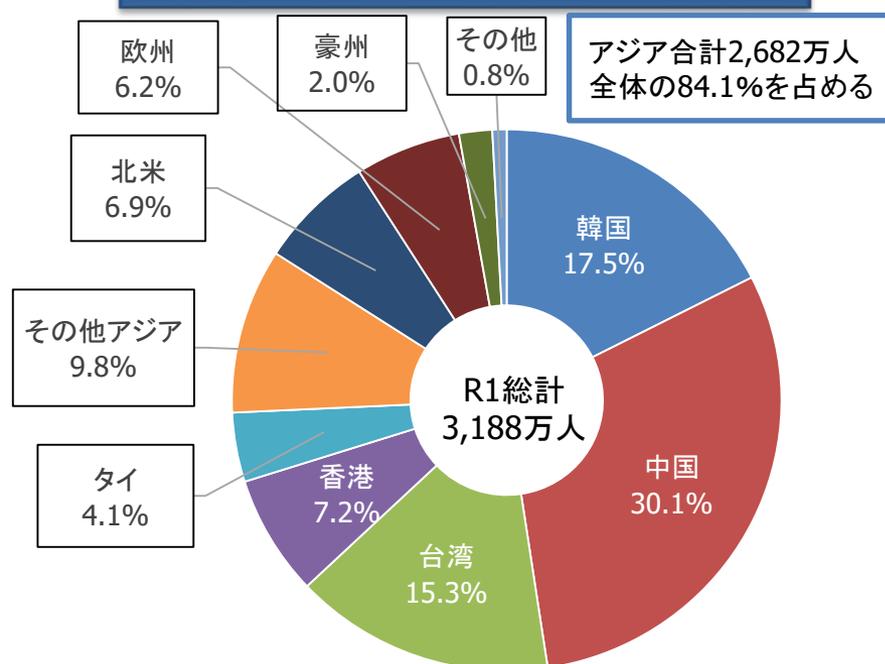
～全国の訪日外国人旅行者数・内訳～

- 令和元年の訪日外国人旅行者数は、平成30年の3,119万人を更に上回る3,188万人(対前年比2.2%増)となり、過去最高を更新した。
- 訪日外国人旅行者を国籍別に見ると、中国・韓国・台湾などのアジア諸国が全体の84.1%となっており、北米が6.9%、欧州が6.2%と続いている。

## 訪日外国人旅行者数の推移



## 国籍別訪日外国人旅行者の内訳



出典：日本政府観光局（JNTO）年別訪日外客数の推移

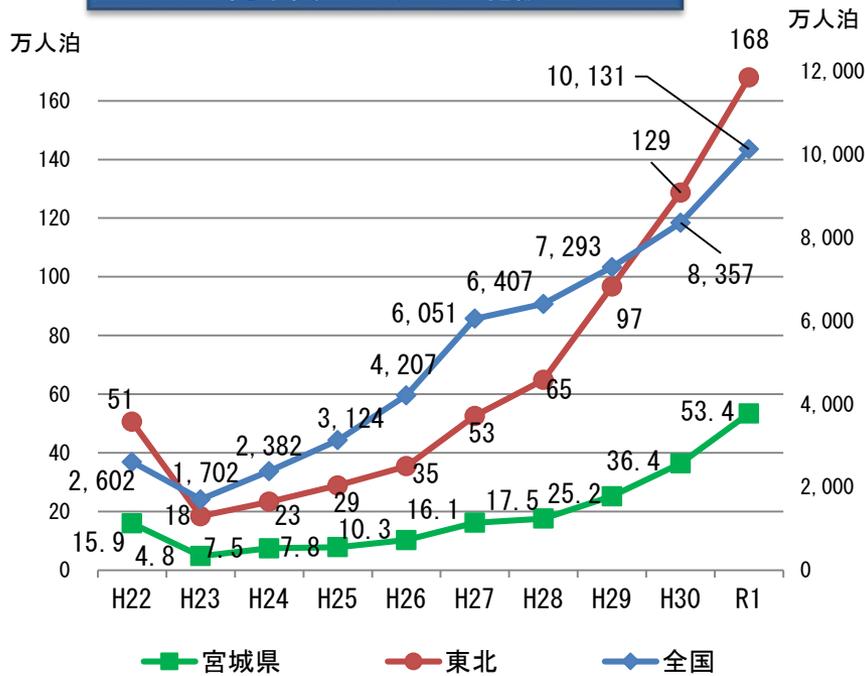
出典：日本政府観光局（JNTO）訪日外客数（2019年）

# インバウンドの現状②

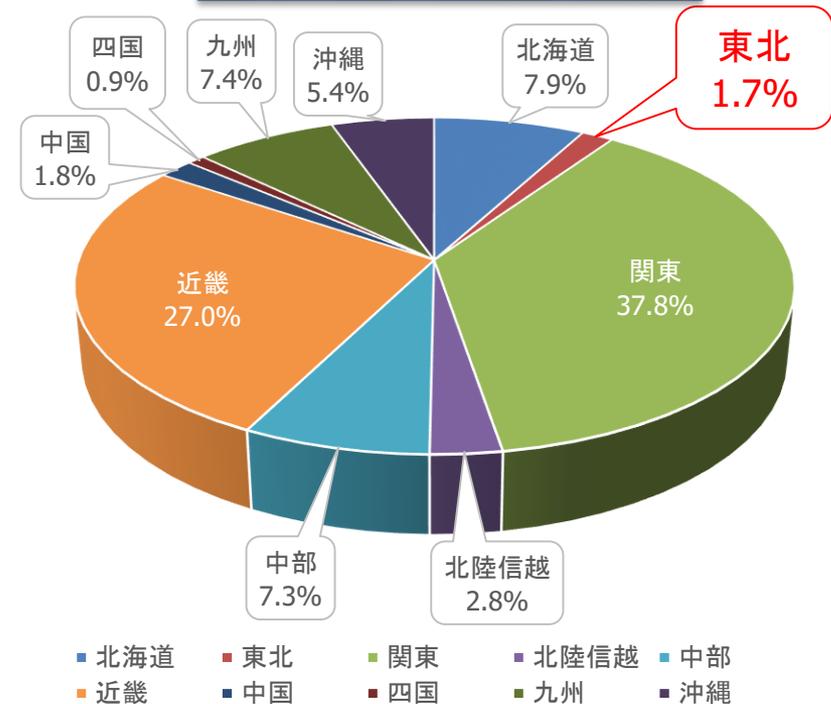
## ～東北地方の外国人宿泊者数～

■ 全国の令和元年の外国人宿泊者数(ビジネス目的含む。)は、約9,071万人(震災前比約3.5倍)と近年大きく伸びており、これに対して東北地方も約156万人(震災前比約3.1倍)と伸びているものの、全国の中では約1.7%の割合に留まっている。

全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移  
(従業員10人以上の施設)



地区別外国人宿泊者数の割合

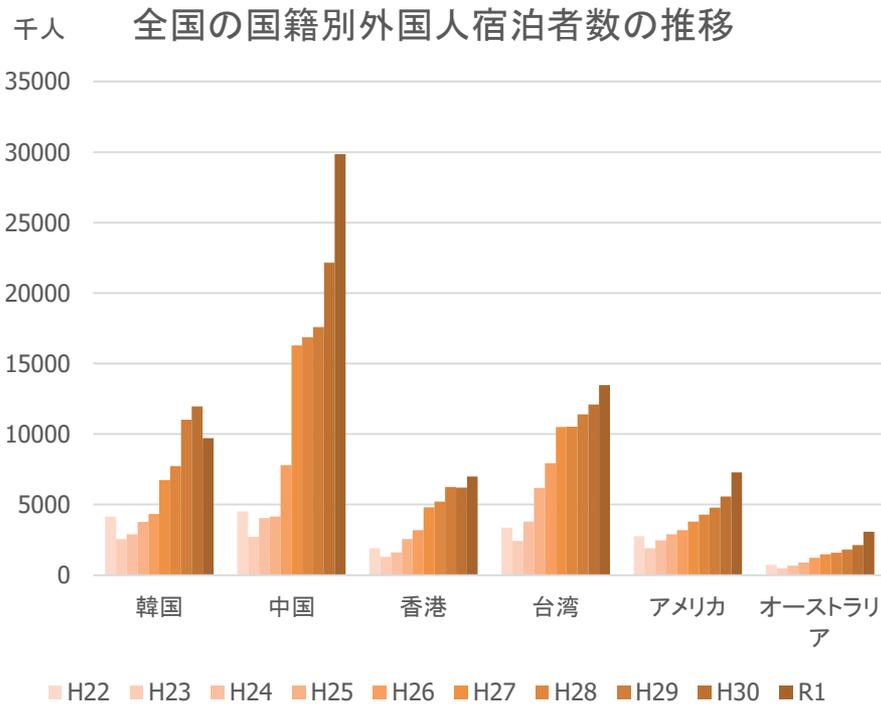


出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

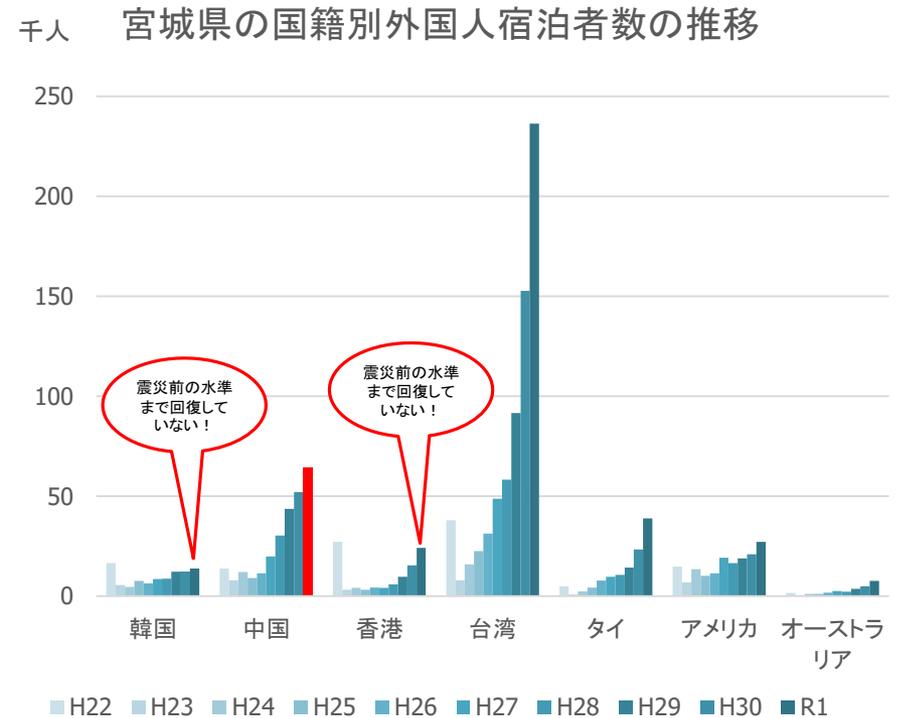
出典：観光庁 宿泊旅行統計調査（令和元年）

# インバウンドの現状③ ～全国・宮城の国籍別外国人宿泊者数の推移～

- 国籍別外国人宿泊者数を見ると、全国ではどの国も震災前を大きく上回り、順調に伸びているのに対して、宮城県では全体としては、順調に伸びているものの、韓国や香港などのように依然として震災前の数値に戻っていない国もある。
- 主な原因としては、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故による風評の払拭に至っていないことなどが考えられる。



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査